日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２８期・７巻　　２０２２年　10 月号　　ＮＯ．254

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すーほう

Susono Reihou Alpine Club

風の記憶

山行ＮＯ．１９９２
２０２２．０９．１０
八ッ・硫黄岳

報告・当面の予定

０８月１５日（月）個＝宝永山２３５２ｍ　１名
　　２１日（日）会＝御坂・黒岳　５名・・・・・タマゴダケ収穫
　　２２日（月）～２３日（火）個人＝北岳　２名・・・・・肩の小屋まで
　　２４日（水）個＝芦ノ湖一周ウオーキング　４＋７名・・・・・意外とキビシイ
　　２８日（日）個＝四国・三嶺　１名・・・・・出張登山
　　３０日（火）～９月０１日（木）個＝利尻岳・沓掛コース　１＋３名
０９月０３日（土）会＝大菩薩嶺　５名・・・・・タマゴダケ収穫
　　１４日（水）個＝富士山・雲海荘　２＋２名・・・・・お月見山行
　　１５日（木）個＝富士山　２＋２名・・・・・散歩
　　１７日（土）会＝富士山周回　６＋１名・・・・・キノコなし、イモ煮会
　　１７日（土）～１８日（日）個＝八剣山、高標山　１＋１０名・・・・・キャンプと登山

３．寄贈会報とピックアップ

「あしたか」　沼津勤労者山岳会　　９月号　　NO.表記ナシ　　P8　　電子版
　　計画＝富士山、毛無山、奥穂高岳、甲武信岳、魂の山
　　報告＝8/7 山伏（ヤナギラン）、富士山（實川さんに会った）

「あさぎり」　あさぎり山の会　　９月号　　NO.347　　P44　　電子版
　　計画＝涸沢カール、大天井岳・常念岳、尾瀬沼、風越山、水ノ塔山
　　報告＝霧ヶ峰、竜爪山、白山、三ノ沢岳（極楽平近くで雷鳥発見）、赤牛岳、濁沢大峰、抜戸岳（抜戸は、縦走路東上）、富士山、針ノ木谷、丹沢・大室山（ミズナラ大木、ナラ枯れで枯死？）

「ハイキングだより」　新潟・みちぐさハイキングクラブ　　９月号　　NO.336　　電子版
　　報告＝日興白根山、八海山、桑原山、魚沼 ALPS、燧ヶ岳、剣岳～立山、写真館＝秋田駒のニッコウキスゲが素晴らしい　計画＝会津磐梯山（日帰り）　会務報告など。

お知らせ・ニュース・・・

９月１４日（水）裾野市在住のハイキング仲間Ｉさんが、単独で越前岳・富士見台付近を登山中、突然、目の前を中型の熊が横切ったそうです。
十里木付近には以前から「熊がいる」の話を聞きますが、身近な話は、今回が初めてです。
今年は、猛暑で山の果実が不作と聞いています。エサを探しての彷徨でしょうか。
幸い何事もなかったようですが、同方面に入山の際は、ご注意ください。

当面の行事・山行予定（原則、定例ハイクは、毎月、巡礼・富士山ウオーク週がある土曜日です）

日	曜日	９月	日	曜日	１０月
1	木		1	土	全国ハイキング集会＝山口県
2	金		2	日	加藤・星
3	土	奥秩父・大菩薩嶺（５名済）	3	月	
4	日		4	火	
5	月		5	水	
6	火		6	木	
7	水	好天日	7	金	
8	木	富山・金剛堂山	8	土	
9	金		9	日	秋山合宿Ｂ・八ヶ岳
10	土	個人山行	10	月	
11	日	10 月例会（徳山荘か生協）	11	火	
12	月	↑秋山打合せ	12	水	伊豆巡礼
13	火		13	木	
14	水	伊豆巡礼	14	金	
15	木		15	土	定例ハイク
16	金		16	日	
17	土	定例ハイク・キノコ祭＝富士山	17	月	
18	日	↑担当・後藤　（７名済）	18	火	
19	月		19	水	好天日・定例アルパイン
20	火		20	木	
21	水		21	金	
22	木		22	土	個人山行
23	金		23	日	県連・安全登山講習会・理事会
24	土	秋山合宿Ａ・空木岳池山尾根	24	月	
25	日		25	火	
26	月		26	水	富士山ウオーキング
27	火		27	木	
28	水	富士山ウオーク	28	金	
29	木		29	土	定例ハイク　担当・井上
30	金		30	日	
1	土	定例ハイク　担当・後藤	31	月	
2	日				

東部ブロック開催　第２回目　　報告書

日　時：２０２２．０９．１２（月）
場　所：ちょっ蔵（１９：００~２１：００）
出席者：伊豆ハイク（野口）三島（平野）沼津（鈴木）あさぎり（富永）
　　れいほー＆山楽歩（加藤）　計　５名

議　題

① ブロック交流ハイクを実施する。
交流ハイクは次会の懸案事項とする。
来期５～６月頃、花の山（長野県　坂戸山）に一泊二日で実施の予定で、
今期は無しとする。
来期のブロック長⇒伊豆ハイク　　会計⇒山楽歩

雪上訓練・・・東ブロ主催ではなく、三島労山の雪上訓練に希望者は参加する。
１２月２５日（日帰り）富士吉田から登る。現地集合。
計画書が出たら、各会に平野さんより連絡あり。

② 自然保護・清掃ハイク及び自然環境の保護活動を実施する。
清掃ハイク実施状況は三島労山の平野さんから各会に報告済。
自然保護活動のアンケート調査を平野さんから各会に配送。

③ 平和行進への積極的な参加を呼び掛ける。
５／１９＝行進は中止でスタンディングで開催。伊豆ハイク参加５名。
５／２０＝沼津市役所～駅前まで行進。　沼津ハイク参加１名。
５／２１＝集会と講演会。あさぎり４名参加。

④ 県連交流ハイクの当番で実施する。（２０２３・０１・１５日）
色々と候補地は出たが、最終的に（東部にある。アプローチが楽。平坦地で大勢の集合が出来る）ことで、沼津アルプスの徳倉山を推すことにした。
又、コロナ禍で、甘酒、お汁粉、トン汁類は止めました。
トイレはトイレブースは作りますが、携帯トイレは各会、各自持参してもらう。
徳倉山集合時間はAM１１：００
交流会は１１：４０～
（山筋ゴーゴー体操の実施。じゃんけん勝負（景品３０名まで）

県連交流会の担当
地図計画書作成＝三島労山（平野）
頂上での進行係＝あさぎり山の会（富永）＝ハンドマイク・トイレブース持参
会計・人数把握＝伊豆ハイク（野口）
余　　興＝沼津労山（鈴木）
山筋ゴーゴー体操＝山楽歩（加藤）

以上

切り抜き帳 静岡新聞から転載

富士山の遭難急増

水難事故 海が大幅減

県警夏期まとめ

県警は15日、今年の夏期（7～8月）における県内の山岳遭難発生件数は55件と前年同期比で37件増加し、全体の約9割を富士山（47件）が占めたと発表した。下山中の遭難が約8割で、原因の約4割が疲労だった。水難事故の発生は同10件減の25件で、海での発生が大幅に減った。

県警地域課によると、山岳遭難者数は57人（前年同期比38人増）で、うち富士山が48人（同37人増）で南アルプスが5人（同5人増）。南アでは7月、高齢男性1人が滑落して死亡した。発生状況はコロナ禍以前の水準にほぼ戻り、発生件数が全国2位、遭難者数は同3位の多さだった。

原因別では、疲労の21人に次いで、病気が13人。前年同期は疲労は約1割にとどまっていた。同課は「コロナ禍の運動不足と久しぶりの挑戦が影響した登山者も多かったのでは」と推察する。

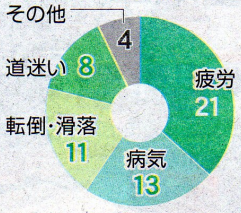
水難事故の発生件数の内訳は海が14件減の18件で、河川は5件増の7件だった。事故者数は19人減の27人で、県外者の割合が減った一方、年齢別で20歳以下が約4割を占め、特に中学生以下の事故が増加した。死者は海が4人減の6人、河川が2人増の2人だった。

海での水難事故が減った理由について及川博行地域部長は「伊豆地域での発生が10件減った。行動制限がなく、海水浴客が本県以外に分散したことが理由では」と分析する。

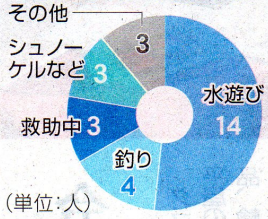
一方、南アなどでは秋の行楽期も遭難の発生が予想され、及川部長は「計画的な登山の徹底と必要な装備の携行を」と呼び掛ける。

（社会部・荻島浩太）

7、8月に県内で発生した山岳遭難の原因



水難事故の発生状況



（単位：人）

スイス氷河 85年間で半減

温暖化影響 ペース加速

生態系に影響 災害リスクも

【ジュネーブ共同】アルプスを抱える欧州の山国、スイスにある氷河の体積が2016年までの85年間で半減したとの研究結果を、スイス連邦工科大チューリヒ校（ETH Z）とスイス当局が3日までに発表した。2万枚を超える写真の分析から推計した。16年時点と比較すると現在までにはさらに12%減少し、地球温暖化の影響でペースが加速。世界各地でも氷河融解が深刻化している。

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は19年の報告書で、今世紀末までに世界の氷河は最大で47%減少し、特に欧州などの小規模な氷河は80%以上減少すると予測した。氷河の減少は生態系に影響を与えるだけでなく、洪水や地滑りなどの災害リスクを高めると懸念されている。

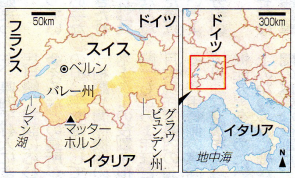
今回のスイスの研究では、1916～47年に撮影された約2万1700枚に上る氷河の写真を基に、中間年に相当する31年の氷河の状況を算出した。2016年の状況と比較して分析したところ、51・5%に相当する62万㌧㍍の氷が失われたと推計した。

研究チームの一員、ファリノッテイETH Z教授（氷河学）は共同通信の取材に「氷河の消失量は、従来考えられていたよりも約2割多いことが今回の研究で分かった」としている。

氷河は一律に後退したわけではなく、最も解けやすい先端部の標高や形状に大きく左右される。マッターホルンなどで知られるスイス南部バレー州よりも、南東部グラウビュンデン州で、より減少しているという。

アルプスの氷河は1850年ごろから消失が始まった。常に減少を続けてきたのではなく、1920年代と70年代後半には増加したところもあった。

スイス南東部グラウビュンデン州の氷河。1935年（上）と比較すると2022年（下）は右下の氷河が消えて湖になっている（スイス地理院／スイス連邦工科大チューリヒ校提供・共同）



裾野麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬　　写真・後藤
山行 NO.	1989
日　時	2022 年 08 月 21 日（日）晴れ・蒸し暑い
山　域	御坂山塊・黒岳（1793m）
コース	長泉 6:00 ー御坂トンネル南登山口 7:57 ー板取沢ー南尾根（広瀬分岐）9:18 ータマゴダケの森ー展望台（昼食）10:45～11:47 ー黒岳 11:56 ー御坂峠 12:43 ー南登山口 13:46 ーＧ邸直会ー長泉
標高差	上り・下り　御坂トンネル南登山口約 1010m～黒岳 1793m＝約 783m
藪漕度	なし
難易度	非常に困難　　困難　　やや困難　　レ普通　　やや易しい　易しい
タマゴダケ大量収穫	
参加者	後藤、加藤、伊藤、合谷、山田敬＝５名

今年の夏は天候が安定しない。今回の山行も富士山のお中道であったが、須走登山口で行先変更。丹沢に向かいかけたが、河口湖の方が天気が良さそうということで、結局、黒岳に登ることに。

天気の様子を見ながらお中道の散策なのかと思っていたら、普通の登山だ。後藤さんと加藤さんの会話から、黒岳を検索して、ＧＰＳを設定。どこからどう登るのかを探る。

河口湖を越えて、三ツ峠入口に車を停めて山行開始。確かにここまで来ると天気がいい。さすが後藤さん。この様子なら少なくとも午前中、雨は降りそうにない。

とはいえ、少し歩きだしただけで湿度が高くて蒸し暑い。予定していたお中道は２０００ｍ程度なので、涼しいかあるいは寒いかもしれないと思ってアウターなども用意していたので、この暑さを乗り切れるかなと心配になる。

オトシブミ（落文）

風もなく汗をかきながら急登を登る。ゼイゼイハアハアいいながら、登っていると、中沢山手前あたりで「あったー！」と加藤さんの声。今回の裏テーマであった「タマゴタケ」を見つけたのだ。見ると白い卵の殻のような中から真っ赤な傘が出ている。

これが噂の「タマゴタケ」か。色が鮮やかなため毒キノコと間違われがちなタマゴタケだが、食用キノコで、食べるとおいしいらしい。「今日の直会は、キノコが食べられる！」と疲れが吹っ飛び、テンションが上がる。

その後も次々と加藤さんは「あったー！」「あったー！」とタマゴタケを見つける。以前から動体視力がいいと加藤さんは自分で言っていたが本当だった。タマゴタケがどんなところに、どんな状態で生息するのか、わかってきたので、皆で探しながら歩くが、後藤さん、加藤さんにはかなわない。

採ったタマゴタケは傷つけないように紙に包みながらカゴで持っていくことに。私はキノコ運搬役を命ぜられ、カゴを手放さないように注意を払いながらの山行になった。

タマゴダケ

黒岳山頂はあまり展望がよくないということで、山頂手前の展望スポットで昼食。残念ながら富士山は見えなかったが、眼下に河口湖が一望できて、気持ちよく昼食がとれた。

1 時間ほど休んで出発。12 時前に黒岳につき、その後旧御坂峠を通るルートで下る。

一見おいしそうなキノコもテングタケなどで毒キノコが多く、赤いかさのタマゴタケそっくりの毒キノコも見つけて、タマゴタケとの見分け方を教えてもらった。まさに自然教

室だ。
下山途中も次々とタマゴタケを収穫。カゴをいっぱいにして無事下山。
　その後、直会では、合谷さんのガレージをお借りして採れたてのキノコをいただく。タマゴタケは食感と風味が格別で、あっという間に完食。デザートに合谷さんからマスクメロンもいただき、たいへん贅沢な、感謝、感謝の反省会でした。

Ｇ邸で直会

その他の記述（後藤）
１．板取沢は、物凄い急登りで、木製の階段が続く。
２．「オトシブミ」を観察。これは「オトシブミ」と呼ばれる昆虫が、ナラなどの葉っぱを巻いて中にタマゴを産んだもの。
３．南尾根で「ママコナ（飯子菜）」を観察した。
４．「タマゴダケ」は、標高 1500m 付近に多くあった。
５．御坂峠の小屋跡にゴミの山。山梨山の会に清掃をお願いした。

６．御坂峠付近の林床の下草が全くなかった。鹿の食害と思われる

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上弘二郎
山行番	個人山行
日　時	2022 年 8 月 28 日（日）晴れ
山　域	徳島県・三嶺（みうね・1894m）
コース	松茂町ビジネスホテル出発 5:30-徳島自動車道　徳島 IC-美馬 IC-国道 438 号-名頃駐車場三嶺登山口 8:18 発-三嶺頂上昼食 10:33～11:28-駐車場着 13:25-国道 492 号-脇町 IC-鳴門 IC -あらたえの湯鳴門 16:30～18:00-ホテル
累計標高差	上り・下り　994m（累計 1011m）
藪漕度	上り・下り　なし
難易度	非常に困難　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
徳島･高知県境の三嶺　28 年ぶり天上の楽園	
参加者	井上、吉角（会社の同僚）＝2 名

徳島出張で土日をはさむので、前々から山の会で言われていた、出張先での登山に初挑戦した。徳島県は、静岡県に転勤する前の会社の勤務地で、4 年ぐらいいて、その時は、徳島の労山の「阿波あすなろ山の会」に所属していた。

今回登った三嶺は、28 年前の 1994 年（平成 6 年）10 月 9～10 日に行っている。当時の私は、24 歳で体力に自信があったが、一緒に行った女性会員についていけず、これではいかんと、鍛えなおすことを自分に誓ったことは今も忘れもしない。

登山靴をキャリーバッグに入れて出張するのは初めて。あとから出張に合流する吉角さんが社有車を運転してくるので、これで行く。(会社には内緒で、電車とバスで行ったことにする口裏合わせをした。)

三嶺山頂

吉角さんは、33 歳と若いが、インドア派ということで登山経験はないが、誘ったら迷うことなく行きますとの回答。若いから大丈夫と思いながら、ついてこれなかったら、途中で撤退することを想定した。出張の宿泊先のビジネスホテルのフロントで 5:30 に待ち合わせ。ホテルの受付のおじさんに山に行ってくると言うと、ホテルの朝食用のおにぎりとパンを持たせてくれた。ありがたい。

高速道路を快適に走り、国道 438 号線に入ると、国道ではなく酷道だった。道幅は狭く、曲がりくね、すれちがいは非常に困難。おまけに霧が濃くなる。駐車場にたどり着けるか不安だった。剣山登り口を過ぎ、なんとか名頃の駐車場に到着。50 台の駐車場は一杯で、既に駐車場の外に車が停まっている。未舗装のはずれに 1 台だけ停めるスペースがあった。登り始めは急登で、大汗をかく。

その後は割となだらかで快適な尾根を登る。案内表示はいつも登っている本州の山より不親切な感じで、何度かルートを間違え、非常に滑りやすい斜面で周囲にしがみついて登る羽目になり、吉角さんは恐ろしい体験をしたと言っていた。

やがて風景は突然笹原に一変する。あと頂上まで少しだ、と思っていたら岩場が始まり、

思ったより楽ではなかった。頂上手前の分岐の目の前には池があり、右手に避難小屋、左手が頂上。頂上の手前に偽ピークがあり、まんまと騙された。頂上到着。コースタイム 3 時間 30 分を 2 時間 15 分で登った。悪くない。吉角さんは登山初体験にしてはなかなかやる。登山用の靴ではなくワークマンで買った 2000 円の靴だが、よくついて来た。

頂上には笹がない。時折、遠くのガスが晴れ、隣の天狗塚や、ちょっと遠くに徳島県では 1 番高く四国で 2 番の剣山が見え隠れする。ちなみに三嶺は徳島県 2 位だが、ガイドブックによると、四国で人気ナンバーワンとのこと。

すばらしい景色に笑顔が止まらない。約 1 時間たっぷり昼休みをとり、天上の池と赤い屋根の 2 階建て避難小屋を見学。28 年前に避難小屋で 1 泊したが、その時の小屋は火事で焼けて、現在の小屋は建て直して大きくしたそうだ。

下山は、ピストンなので同じコースを行く。下りは 1 時間 55 分と快調。行きの国道はすれ違いが困難なので帰りは道を変え、時間は多くかかるが 492 号にする。

整備されていて走りやすい。脇町 IC から徳島自動車道で鳴門 IC まで行き、温泉「あらたえの湯」で汗を流す。ここの露天風呂は鳴門の海と小鳴門橋、そして眼前には鳴門ボートレース場が見える。この後のビールが最高だったのは、言うまでもない。

四国・三嶺（ネット）

阿波あすなろ山の会　http://kn8.jpn.org/asunaro/

当山の会は、山上での仲間との憩いを求めて、四季折々の登山をはじめ、縦走や沢登りなどバラエティに富んだ山の楽しみ方を常に追及しており、徳島県内を中心に国内の広いエリアを計画の対象に入れています。

会員募集中＜山の会の５つのメリット＞

・山の仲間ができて、楽しく安全な山行ができます
・花の開花情報など、山の情報が手に入ります
・個人では難しい、縦走や沢登りができます
・初心者でも、いろいろな山に行くことができます
・学習会などに参加して登山技術の向上が図れます

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上弘二郎　　写真・後藤
山行番	NO.1991
日　時	2022 年 9 月 3 日（土）濃霧・蒸し暑い・時々小雨
山　域	奥秩父・大菩薩嶺　(2057m)
コース	長泉 6:00-みそぎ沢登山口 8:15-丸川峠 10:16-大菩薩嶺 11:40（伊藤、井上は 12:06）-雷岩（昼食）12:20～12:55-福ちゃん荘 13:54-上日川峠（ロッヂ長兵衛）14:13～加藤さんが車を回収 14:51-千石茶屋-桃の里温泉ー長泉・海鮮屋（反省会）18:30～20:30-解散
標高差	上り・下り　974m
藪漕度	上り・下り　　なし
難易度	非常に困難　　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
恒例のミステリー山行・桃ジュースを求めて	
参加者	後藤、加藤、伊藤、合谷、井上＝5 名

初めは狩野川源流リバーウォークの計画だったが、前日の大雨で中止となり、行先は知らされない、恒例のミステリーツアーだった。車に乗り込んで、ひとしきり世間話が終わったところで「ところで、今日はどこに行くのですか」と聞くと大菩薩嶺とのことだった。とりわけ驚かない。

丸川荘主人（2018.04.06）

登山口に近くなっても、山の上の方はガスがかかっている。天気予報はばっちりだったのにおかしい。そのうち晴れるだろう。気温は低いが、湿度は高い。暑くないのに暑い。服を濡らした汗は乾かない。登り始めて、これまた恒例の加藤さんの「あったぁーーー！」の悲鳴。巨大で美しいタマゴダケが何本かとれた。丸川峠の丸川荘のコーヒーを楽しみにしていたが休業だった。

イトーさん、タマゴダケ採取

後藤さんと加藤さんと合谷さんが先行し、伊藤さんとゆっくり登る。後ろから単独の女性登山者が追い付いてきた。聞くと、34 歳のベトナム国籍で日本には 4 年住んでおり、登山は 4 回目。日本の IT 企業に勤め、在宅ワークなので運動不足解消に登山を始めたとのこと。日本の漫画とアニメが好きで、大学で日本語と日本文化を学んだとのこと。

ベトナムの方

時折、日が差し周囲のコケや木々がきれい。大きなヒキガエルが道を横切った。小さな蜘蛛の巣が周りの小枝の間にたくさんあり、綿帽子のようだ。頂上に着くと、小雨が降っている。雷岩方面から来た登山者が大勢いて写真を撮っている。

大菩薩嶺山頂

雷岩の手前で昼食にする。小雨のため傘をさしてカップ麺を作る。食べる頃には雨が止んだ。上日川峠からの登山者は軽装が多い。町中の服装・靴の人を多く見かけた。雷岩の近くでは、人を全く恐れない鹿が 1 頭、至近距離で草を食べていた。

下山を開始すると少しガスが晴れ、大菩薩湖が見えた。少し遠くに食事中の 8 頭の鹿が見えた。1 頭がじっとこっちを見ている。福ちゃん荘を通過。上日川峠のロッヂ長兵衛に着くと、加藤さんが車を取りに先に下りたとのこと。

後で聞くと、ヒッチハイクをして、「仲間がヘリを呼ばなければいけないほど疲労したので車を取りに行くのでのせてほしい」と頼んだとのこと。「千石茶屋で桃ジュースを飲んで」と、お礼として 1000 円を渡した。おかげで 1 時間以上時間を節約できたので、温泉に入って帰れそうだ。

無添加・桃ジュース

千石茶屋で待望の桃ジュース(200 円)を注文。2 年前に飲み損ねたホットコーヒーも頼んだ。桃ジュースはミキサーで作るスムージーで量が多くて冷たくて、頭がキーンとして大変だった。コーヒーは川越のコーヒー屋の豆でたいそう香りも苦みもよろしい。

桃のコンポートは直前のお客さんで終わってしまったので、瓶詰の桃のシロップ漬け（500 円）を買い、おいしそうな梅ジャム（300 円）も購入した。ヨーグルトに入れるとよいらしい。

山は高湿度、濃霧、小雨、展望がなかったが、千石茶屋で大満足した。
桃の里温泉（620 円）で露天風呂とサウナを堪能し、帰路へ。長泉の「満貫」は満席とのことで「伊豆海鮮」に行き、勝又さんも合流し、今後の山について語り、今日を終えた。

以上

千石茶屋

雷岩

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　後藤
山行 NO.	1992
日　時	2022 年 09 月 10 日（土）晴れ・霧
山　域	八ッ・硫黄岳（2760m）
コース	長泉 5:30ー諏訪南ー夏沢鉱泉第二駐車場下 8:59 ー夏沢鉱泉 9:36 ーオーレン小屋 10:33 ー夏沢峠 11:10ー硫黄岳 12:29（先着 12:17）～13:15 ー赤岩ノ頭ーオーレン小屋 14:18 ー夏沢鉱泉 15:01 ー駐車場 15:34 ー長泉
標高差	第二駐車場下約 1800m～硫黄岳 2760m＝960m
藪漕度	なし
難易度	非常に困難　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
山頂は広大なグラウンド	
参加者	後藤、井上、加藤、伊藤、合谷、星、斎藤
ど～が～	http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-51.mp4

久しぶりの硫黄岳。ただ、北面からは林道、駐車場に問題がある。兎に角、林道が悪い。ここ何年か林道で痛い目に遭っている。マフラーを損傷したり、氷坂で滑落したり、何かとトラウマである。途中の沢を渡る橋は最悪だった。

また、最近は「駐車難民」なる言葉がある。コロナの影響か不明だが、登山者の車が多い。そんな訳で３０分早く出た。案の定、夏沢鉱泉第二駐車場は満杯。駐車場でＵターンし、すぐ下の林道脇に駐車した。その後も車は続々やって来た。

駐車場

夏沢鉱泉に着いた。オーレン小屋に歩荷の女子がいた。隊は早くもバラけたので、ここから私が最後に行くと提案したが、結局、「皆でゆっくり行こう」となり、いつも最後を担うＩにトップを任せる。

右手の沢沿いの冷気が溢れる爽やかな道を上る。随分整備された道。硫黄岳に初めて訪れたのは、1971 年 2 月 4～6 日だった。唐沢鉱泉～東天狗岳～根子岳（14：00 ビバーク）～硫黄岳～赤岳鉱泉だった。記録はあるが記憶は全くない。ただ記録は、茅野発 3：00 とあるが、昔は、そんな時間に着く汽車があったのか。

Ｉと次第に距離が出来た。Ｉは、いつも最後尾で「滅私奉公」をしているので、それはそれで良いと思った。ところが、後方にいたＫが突然、「さあ、Ｈ行くよ～来て～」といってＩの元に駆け寄り一緒に上って行った。

夏沢鉱泉

オーレン小屋

夏沢峠

オーレン小屋は賑やかだった。多くの登山者がたむろしていた。飲食メニューが豊富だった。傍らにトリカブトが揺れていた。八ッのトリカブトは、ホソバとキタダケがあるそうだ。

夏沢峠に向かう。人工物が見えると峠だった。案外、楽だった。兎に角、ここの道は整備が行き届いている。再び全員で合流。峠に霧が往来する。「ヒュッテ・夏沢」は、閉まっていた。前回もそうだったような気がした。

硫黄岳に向かう。標高差約３３０ｍ、１時間少し。３名先行し、４名でユックリ・ノンビリ上る。動画撮影には丁度良いスピード。

ガラガラの「累卵（るいらん）の岩場が続いた。「累卵」というより、カラカラ音がするから、「カキガラ」の方が良いかも。でも、案外上り易い。

ケルンの道

前方に大きなケルンが立つ。こんな立派なケルンは珍しい。相当の労力を費やしたであろう。硫黄岳山頂着。先着は１２分位待ったようだ。他の登山者と喋っていた。

山頂南で昼食。多くの登山者も同じ。この山頂は気持ちが良い。好天なら眼前に南八ッが大きい。ただ皆、辛うじて生えている草の上で休んでいる。これは、マナー違反だ。

Ｋが持参の固形燃料に火を入れたが、固形燃料が「昇華」して使い物にならなかった。

個体が気体になる現象が話題になった。

１．　液体の内部からの気化を沸騰　　２．液体の表面で起こる気化は蒸発　　３．液体を経ずに固体から気体する現象を昇華、だった。

小一時間休み下山。途中で今朝、我々の車の後ろに駐車した地元親子が上って来た。随分時間が掛かった。昼食は食べたといった。赤岩ノ頭から、オーレン小屋に下る。

夏沢鉱泉で会った父・息子は、オーレン小屋でテン泊といった。テン場は狭いが予約すれば問題ないそうだ。父子でテン泊とは素晴らしい。

第二駐車場の車は、大分減っていた。帰路、御殿場で金時山上に見事な満月。新暦は今日だが、旧暦なら今日は８月１５日。旧暦のが季節感があってよろしい。

（完）

参考・・・コースタイム（2008 年・エアリアマップ参照）

上り　夏沢鉱泉～オーレン小屋・・・エアリア 40 分→→→実時間 57 分＝＋17

オーレン小屋～夏沢峠・・・・エアリア 20 分→→→実時間 37 分＝＋17

夏沢峠～硫黄岳・・・・・・・エアリア 60 分→→→実時間 79 分＝＋19

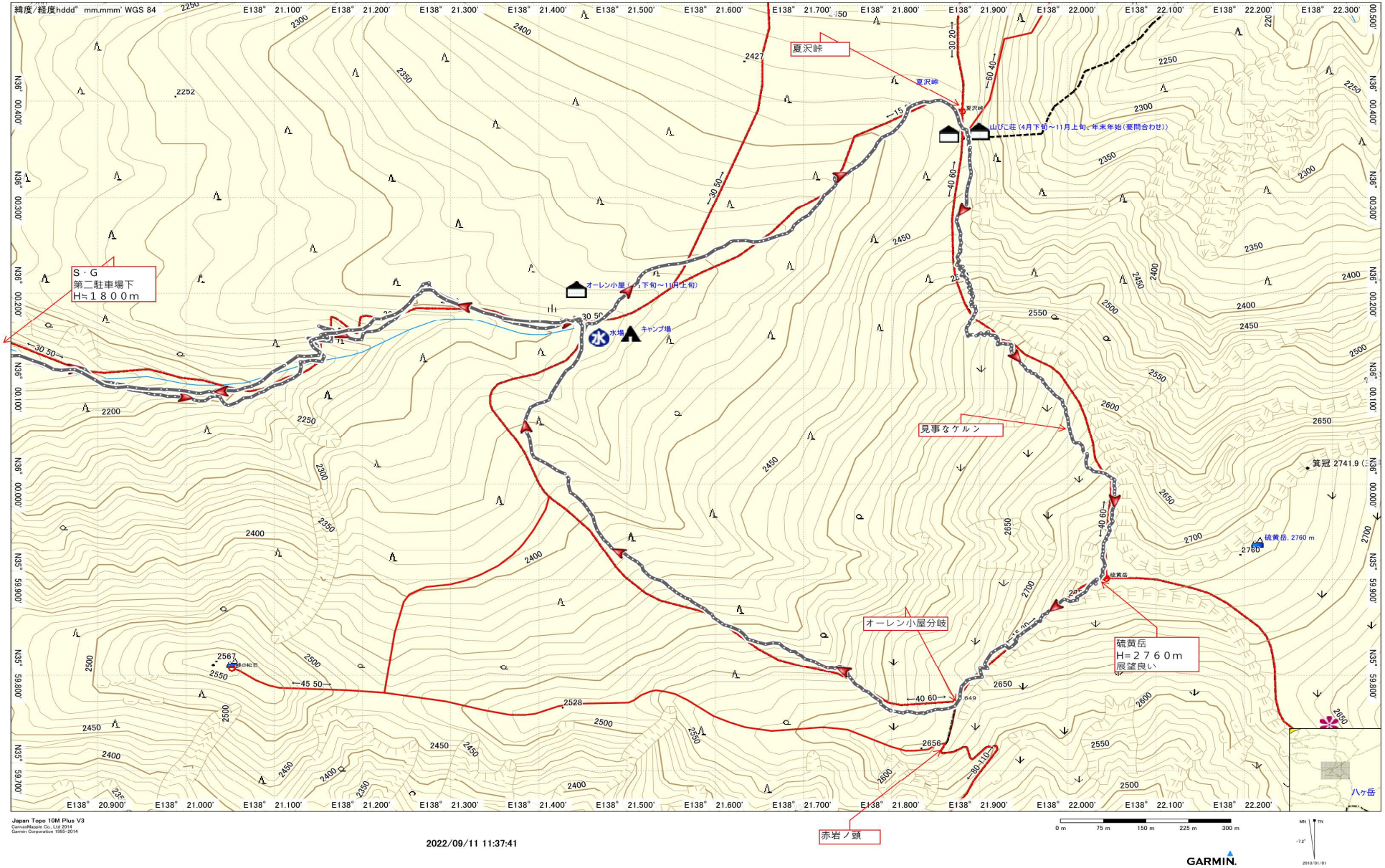
エアリア合計＝120 分　実時間合計＝173 分・・・＋53 分

下り　硫黄岳～夏沢鉱泉・・・・・ エアリア 100 分→→→実働時間 106 分＝＋6 分

＊上り時間が＋だが、エアリアマップも、きついタイムはある。参考にして精進しましょう。

硫黄岳山頂

ナナカマド


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
夏沢峠
山びこ荘（4月下旬～11月上旬、年末年始（要問合わせ））
オーレン小屋（4月下旬～11月上旬）
水場
キャンプ場
S・G
第二駐車場下
H≒１８００ｍ
見事なケルン
硫黄岳
硫黄岳, 2760 m
硫黄岳
H=２７６０ｍ
展望良い
オーレン小屋分岐
赤岩ノ頭
筑冠 2741.9
ハケ岳
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014
2022/09/11 11:37:41
GARMIN

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　加藤
山行番	個人山行
日　時	2022 年 8 月 30 日（火）～9/1（木）晴
山　域	北海道・利尻山（1719m）
コース	沓形登山口 4:40～三眺山～鷲泊コース合流点～利尻富士（頂上）9:19～11:00 ー鷲泊コース野営場 14:00　行程時間＝４時間３９分（其のうち休憩時間・１時間５分）
標高差	上り・下り　1,674m
藪漕度	上り・下り　なし
難易度	非常に困難　困難　レやや困難　普通　やや易しい　易しい
海に浮かぶ日本最北端の秀峰	
参加者	加藤、中原（沓形）・藤井（鴛泊）、車両係り１名＝4 名

8 月 30 日（火）

数年前、会山行で利尻山に登った時、沓形コースを登りたかったが、其の時は１２：１で私一人が別コースは駄目だと言われ、鷲泊コースを登らざるを得なく残念な思いが何時も心に残っていた。

所がチャンス到来。男２人で利尻に行く話をしていたのを小耳に挟み、会話に乗り込んだ。話はトントン拍子に進み、Ｎと私は沓形コース、Ｆは鷲泊コース。車の送迎はＦの奥さまがやってくれるとの事。これで、車の回収の心配もない。日程も決まり飛行機の手配も済んだ。

朝、富士を７：００に出発し、静岡空港に８：００過ぎに到着。初めての静岡空港だ。

羽田に比べるすべもないが、小振りの館内は閑散と静かで、場所がわかり易い。これなら私でも手続きできそうだ。９：３０の搭乗で北海道の丘珠（おかだま）空港に１１：１５着。丘珠空港発１４：３５～利尻空港１５：３０着。

機上から見た利尻山は圧巻だった。富士山のような秀麗な姿の利尻山は、すそ野がそのまま海に落ち込んでポッカリ山が浮かんでいるように見える。夕陽の中でひときわ輝いていた。

深田久弥が「島全体が一つの頂点に絞られて天に向かっている。」と絶賛しているが、正にその通りだ。空の上からでなければ見えない景観に機内から歓声の声があがった。

右が沓形コース

空港カウンターでレンタカーの手続きを済ませ軽を借りる。ヤダ！ナビがついてない。そう思ったが、後でわかった事だが島内一周しても１時間強の島ではナビは必要ではなかったのである。取りあえず鷲泊と沓形の登山口を確認に向かう。

沓形コースは見返代園地が登山口で広い駐車場と立派なトイレが設置してあった。

看板には「上級者コース」と書かれてあり、難所の連続。特に「親不知、子不知」の難所は事故が多く「注意が必要」とあり、明日の意気込みが更に増した。

道路は行き交う車も少なく、走りやすい。それから、今夜のゲストハウスで手続きをし、夕食と翌日の朝食、行動食を買い込み就寝。

8 月 31 日（水）晴れのち霧

４：００起床。直ぐ段取りをし４：３０に出発。登山口駐車場から少し下がった所が登山口であった。林の間を縫うように出来た狭い登山道は、黄土色の粘土質でツルツル。

しかも最初から大小の岩が積み重なったごろたん道で、足を中途半端に置くとツルっと滑ってしまうから要注意だ。それにしても、溝のようなグレた道は風の通りもなく蒸し蒸しと暑い。汗が噴き出る。此処は最北端だろう！何故こんなに暑いんだー！　心の中で叫びながら、ひたすら、只ひたすら無言で登る。頭上で小鳥の囀りが聞こえる。静寂に包ま

れた森林地帯に２人の息遣いだけが荒々らしい！
　ごろたん道と格闘で、６合目、７合目と登ると、やがて避難小屋。やっと展望が開け眼下に沓形港と礼文島がハッキリ見える。ノンビリとゆったりとした風景にホッと一息。

　道の両側の樹木も低くなってきた。馬の背と呼ばれる景観の良い稜線ルートに出ると、真っ赤に熟れたコケモモがうざうざとある。又、粒がでかい。「わぁ～お！」思わず歓声があがった。
　採りたい衝動を必死に抑え、一粒、二粒口に頬張る。ほろ苦さがジワーッと口に広がり疲れが一気に吹っ飛んだ気がした。其れからは目にも鮮やかな濃い紫のトリカブトがチラホラ目を楽しませてくれた。お陰で急登も何のその。足取りは軽い。

　８合目を過ぎ三眺山に着くと、目の前にドーンと利尻山の雄姿が目に飛び込んだ。
素晴らしい景観だ！　右手はギザギザの鋸の歯のような尾根が続いている。
　脆い岩は雪がついてしっかり固定すれば登れるかも・・・と言われる夏道はない仙法尾根だ。嫌だ！イヤだ。あんな所は登りたくない！正面は絶壁な稜線が続き、その先にロウソク岩が屹立。まるで棒アイスを立てたようだ。左手には鷲泊コースと頂上を結ぶきれいな稜線が見えている。Ｆさんは今頃どの辺りを登っているだろうか？

　３０分位、景観を楽しみ、いよいよ核心部にと開始。背負子投げの難所を一旦下り尾根のコルを左に回り込み、草付き急登の草を掴みながら登る。花も段々と多くなり、似ているけれど何処か違う？みたいなキキヨウ？ノコギリソウ、イワツメクサ？名前がわからないけれど白いきれいな花。なかでもナデシコが素晴らしく感動した。内地で咲くナデシコより色が濃くとても鮮やか！
　北斜面なので、夏の花々が、まだひっそりと咲いているのか嬉しい！花に癒されながら

急登を登りきると、急な斜面のトラバース気味になり、草付きの足元は幅 10 センチもないような狭い道だ。うっかりよそ見をすると、完全に下まで滑落だろうみたいな所だ。

　やがて、コース最大の難所といわれる親不知、子不知の崩壊地形のガレ場をトラバース。巾１０ｍもなく、富士山登っている私達には何て事ない。然し、滑って落ちれば奈落の底が口を開けて待っている。続いて子不知。その先からが半端ではなかった。
　岩を掴んでの急登に喘ぐこと、喘ぐ事。花がチラホラ見えたが見る余裕がない。ウンコラショとお尻を持ち上げて登る事に精いっぱいだった。もうヤダぁ～と悲鳴が上がる頃、やっとの事で鷲泊コースの分岐点に到着。

　腰を下ろし休憩しながら鷲泊コースから上がってくるＦを待つ。電話をするとまだ７合目らしい。それではと、腰をあげ頂上に向かう。季節を過ぎた花々が其処かしこに・・・。

良いねぇ・・・の連発。稜線は見晴らし抜群で、ロウソク岩も眼前に迫ってきた。身体の疲れはもうなく、危険個所と言われる場所も難なく、あっという間に頂上着。

祠に登拝。それから 360 度の展望をグルリと堪能する。屹立したロウソク岩が見事。南峰は崩壊が激しく登山禁止となっている。が、ルートが伸びていた。それでも行く人が居るだろうか？F を待っている間に、ガスが立ち込め始めた。早くしないと展望楽しめないよ～と携帯する。

それから１時間ようやくＦが到着。暫く休憩をしてガスが周りにドップリ立ち込め始めた頃に下山開始。とっとっと下りは早い。トイレ・ブースのある９合目でトイレ休憩。

利尻岳は６合目と９合目にトイレ・ブースがあり、携帯トイレを義務づけている。

使用した携帯トイレは登山口に回収ボックスが設置してあり、其処で始末できるので持って帰る必要がないので便利だ。私は２組持参して使用したが、山を汚さなかった・・・という爽快感が気持ち良かった。山を登るときには、何時もこうでありたい。

まっ、下りも登りも変わらない。道はやはりごろたん道で、時折枝を掴んでの急下降に、以前「山楽歩」の会山行１３人で往復したが、よくこの道を登ったものだと改めて感心した。甘露水まで来ると後一息だ。喉を潤しＦの奥さんが待つ野営場の駐車場に一目散で到着。雨の心配もなく展望も堪能でき本当にいい山だったと感謝の一日でした。

夕食は、「お疲れさん会」で近くの店で会食。皆ビールを中ジョッキで乾杯！私も一著前に頼んで「カンパ～い！」達成感で顔はほころび、話が弾む。利尻迄来たなら食べにや損々とばかり女性二人はウニ丼を注文。

大きい器は@5,000 近くもするので@2,300 のミニ丼にした。小さなお椀にウニがたったの 2 切れ。申し訳なさそうにご飯の上にのっかってた。「何だ！ウニってこれっぽっち？」ウニを味わうでもない量だった。

あれ？周りのざわめきが急に遠のいてきた。私もしかして、もしかして吐気か？
皆に悟られないようにトイレに急行。ウニがもったいないと思いながら食べた物をトイレの中に一気に吐き出す。やっぱりビールが問題だったのか。三口飲んだだけで、中ジョッキの中は３分の２以上ビールが残っている。ヤダねぇ～！アルコールが弱いのも寂しい限りでした。

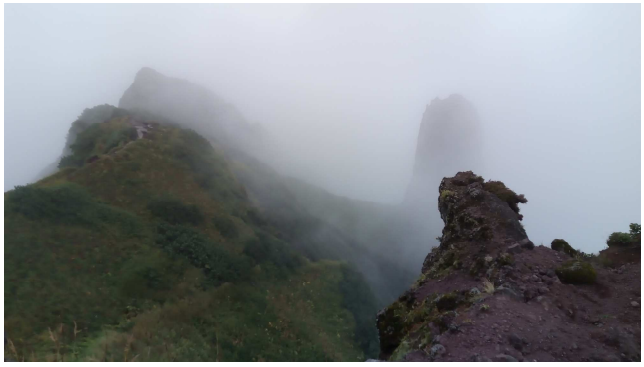
9 月 1 日（木）

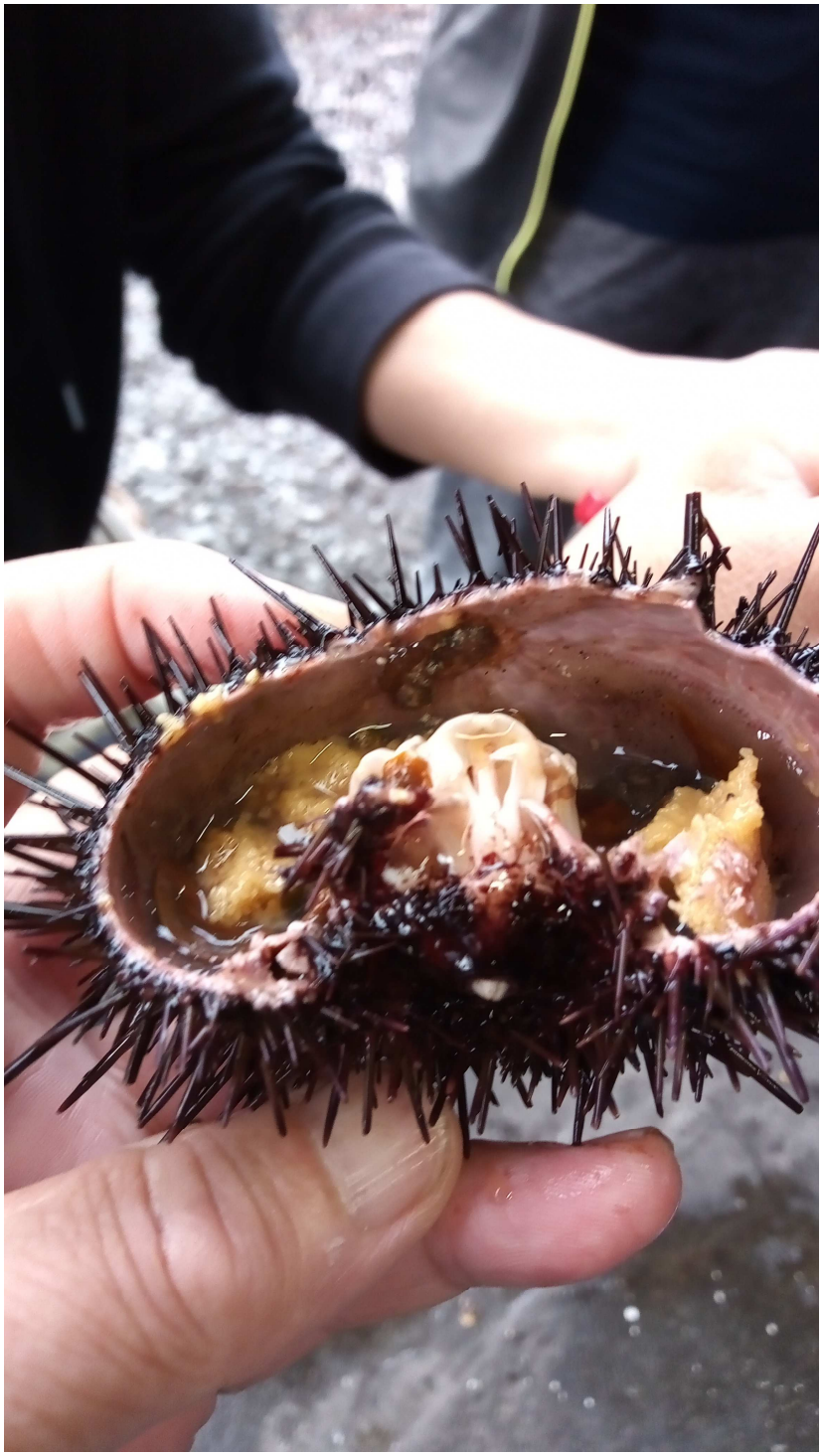
翌日、朝の食べ物の買い出しをしながら近所を散策。ぷらぷら歩いていると、倉庫の前で座りながらウニを殻から掻き出している仕事場を発見。

私がそれを見逃す筈がない。すかさず、「何をしているところ？」声をかけた。ウニを取り出した殻がまだ動いている。よだれ？を垂らして「ジーっ」と眺めていたら、一人の人が「食べたい？」　すかさず歓喜の声で「うん！食べるー！」

歩いていた皆を呼んだ。サジを貸してくれて、剥き方を教えてくれて、剥いたウニをペロり。昨日のウニとは段違いの旨さだ。塩味が丁度良い。９月１日はムラサキウニの解禁日で今日は初収穫のウニだという。ラッキー！奥のおじさんも剥いたウニをたっぷり手に乗せてくれた。私一人でも５個分くらい食べさせて貰っただろうか？生きたウニはやっぱり美味しい！

旅の面白さは地元の人との交流だと北海道観？　いやウニを満喫した。４：００発の飛行機まで間があると、道内を車で一周まわる。約１時間強の観光だ。





ウニ

車も人も少なく、観光施設も少ない。食べる所もあまりない。港で暇を潰していると、漁船？が丁度目の前にあった。オジサンが出入りしていたので何時ものように声を掛けてみた。

話好きな人で７３歳、ヤッだー！私と同じジャン。それから意気投合。船内の中を見せてくれた。船底に、カレイ二匹とフグが一匹。漁師をしているが魚は食べないという変ったオジサンが、「刺身で食べたいなら、みんな持って帰っていいよ」と気前がいい。

う～ん。残念！そう言われても今日帰るから貰って帰るわけにはいかない。オジサン早く出会いたかったねぇと、記念写真をパチリ。何故か、あんたは９０歳まで長生きするよ

と言われた。喜んでいいのか、はたまたう～ん？なのか複雑な気分だなぁ。
そんなこんなで時間を潰して搭乗の時間になり１６：００機上の人へ。
１７：４０丘珠空港から乗り継ぎ、１９：３５静岡空港に着く頃には雨がドシャ降りで、駐車場までびしょ濡れを覚悟していたが、空港を出る時にはあの雨が不思議にピタッと止んでいた。此処でも、晴れ女！と皆に感謝される。いい事づくめの利尻旅でした。

参考　　航空運賃＠４７，４００　ゲストハウス二泊＠９，２００　レンタカー４人で頭割＠５，１２５で一人合計＠６１，７２５でした。

携帯トイレ・ブース

＊利尻島では、２０００年から携帯トイレ利用が始まった。
＊「等高線」は、２００１年に書いたものです。

登高線　　後藤　隆徳

北の山ではすでに始まっている

先日、利尻島を訪れた。初めて訪れたのは１９７５年だから、すでに２６年経過した。当時は「カニ族」と呼ばれる一見放浪者風の若者が多かったが、今は中高年のオバさんが、我が物顔に闊歩している。

渡島も当時は、小型船の船底に揺られたが、今は大型バスが１０数台積める大型フェリーで極めて快適。もはや「秘境」のイメージは失せた。

バスに乗ると利尻岳鴛泊コースを登ってきた登山者がいた。話を聞いているとどうも「黄金運搬」の話のようだ。ガイドもいたので正してみると、鴛泊コースのある利尻富士町では、昨年から一般登山者に「黄金運搬・持ち帰り」（今後「黄金回帰」で統一したい）をお願いしているという。

■

利尻岳は標高１７２１ｍの山だ。普通の登山者なら十分日帰りが出来る山である。しかし、標高差が大きいため、朝食を摂らない早朝出発が多い。結果、八合目の避難小屋付近で用を足す登山者が増え、周辺が非常に汚れてきた。

町では昨年、携帯トイレを登山者に渡し「黄金回帰」を期待したが、「する」場所がないと指摘され、今年度は避難小屋の裏に「する」場所を設置した。

基本的には大だけでなく小も対象。携帯トイレは全くの偶然だったが、私達がいつも使っている「サニタ・クリーン」だ。

これは旅館、民宿、登山口で無料で配られている。用を足したら登山口まで回帰し「黄金ポスト」に入れる。これを町が毎日回収して焼却している。

この時バスにいた登山者は１２名。「黄金回帰」した人は２名。他は小のみだった。まだ始まったばかりなので「回収率」などデータはないが、現在のところ避難小屋周辺はまずまずの美しさを保っているとのことだ。

■

少し前、テレビで富士山頂の環境指向型のトイレの紹介をしていた。「杉チップ」で黄金を分解する方式と言っていた。

しかし、いくら分解しようが何しようが、何がしかの物は残る。それらは結局山に流される訳だ。低温が続く季節はどうするのか。

そうしてみると、やっぱり「黄金回帰」が最上の方法と思われる。どうして富士山でそれを試みないのか。登山者が多いからむしろやるべきではないか。

数年前、北岳御池小屋が雪崩で流された。いま芦安の清水君が再建メンバーに名前を連ね再建に奮闘している。

これは非常にいい機会だから是非御池小屋でも「黄金回帰」を採用してもらいたい。簡易トイレ代は２００円の有料でよい。この機会に妥協したら孫子の代まで悔いを残すだろう。

「山には何も持ち込まない。そして、何も残さない」北の山で、その運動が今静かに始まっている。　【NO-64 01-07-20】

日本勤労者山岳連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
裾野麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）
会報「れいほう」
第 28 期・7 巻　2022/10 月号　NO.254
連絡先 静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12 徳山荘
090-8956-9990 055-986-6075

HP　http://susono-reihou.babyblue.jp/
Mail　takanori_reihou8888@yahoo.co.jp

9/17　富士山・富士薊鹿の食害